



グランパ、この服もらっていい？

■ 洋服がもったいないからじゃない「カッコイイ！」から直す

今、昔の服が「オシャレだから」直して着ようという風潮があります。

例えば、祖父の服をみたら「なんか、カッコイイ！」だから自分に合うように直して着る。という具合です。祖父が若かりし頃のスーツはウールで目が詰まっていてしっかりとした素材。また縫製も職人が手作業で丁寧に作ってあります。

「なんか、カッコイイ」はカタチだけでなく本質の良さを無意識に感じている現れだと思います。

グランパ、この服もらっていい？



■ 祖父のタンスが、俺のショッブになった！

オシャレな祖父を持つ男性がアン・コットンに来るたびに言っている言葉です。男性の祖父も自分の大切にとっておいた服を孫が着てくれるのが嬉しいらしく「グランパ、この服もらっていい？」と尋ねるとにこやかにOK。

時々、一緒にお店に来ては洋服の思い出を語られます。



■ ほかにこんなケースが…

「思い出のドレス」

声楽の先生が昔、初めての舞台で着用したドレスを今度は弟子の初舞台の為にそのドレスを今風のカタチにリメイク。先生から弟子へのエールだそうです。カタチを変えて思いは受け継がれていくようです。

ドレスリメイク

38,500円 (税抜き) ※参考料金

東京都豊島区目白3-4-5 アビタメジロ203
TEL 03-3951-4105

株式会社アン・コットン



メルマガ会員
募集中

